

歴史ライブ

北条政子

福武書店

編集・ディレクション	植田博文・黒坂 勉・宇野恵信・武隈恵里左・河田美智子
装丁・アートディレクション	浅葉克巳
レイアウト	山本昌美
本文写真撮影	秋月岩魚
カバー撮影	坂田栄一郎
カバーモデルメイク	木下ユミ
カバーモデルカツラ	水口誠也
カバーモデル衣裳	森 良夫
取材協力	河野真知郎

歴史ライブ 北条政子

昭和58年11月10日 初版発行

定価	1,400円
監修者	尾崎秀樹・福田紀一・光瀬 龍
発行者	福武哲彦
編集責任者	雨宮良夫
発行所	株式会社 福武書店 東京都千代田区麴町6-6 〒102 電話 03(230)2131 振替口座 東京9-37119番
印刷・製本	大日本印刷株式会社

© Fukutake Publishing Co., Ltd. 1983
 シリーズコード ISBN4-8288-0300-9 C0321
 北条政子コード ISBN4-8288-0303-3 C0321
 落丁・乱丁本はお取替え致しますので、当社までお送りください。

歴史ライブ

北条政子

福武書店





ありふれた光の中で、ありふれた娘が笑っていた。

伊豆^{いず}菰^こ山は、およそありふれた土地柄である。政子はそのありふれた土地のありふれた土豪のありふれた娘であった。田畑^{いり}で^{くわ}鋤^{くわ}をふるうこともある、素朴で、シンが強く、人のよい、そんなただの娘っ子であったのだ。





運命の氣まぐれは、みな知っていて、誰も知らない。

もし政子が、山木判官やまき はんがんとの結婚を素直に受け入れていたら、彼女の人生は、おそらく穏やかな、つつましいものになっていたことだろう。恋の炎は、彼女の人生だけでなく、歴史の行方まで大きく変えてしまった。



愛の力を、彼女はきっと試したかったのだ。

その夜はひどい嵐であった。15キロ離れた伊豆山で、頼朝は政子を待っていた。ひそかに館を抜けた政子は、ただでさえ峻しい山道を、何度も馬からすべり落ちそうになりながら越えた。嵐の向こうに空があった。





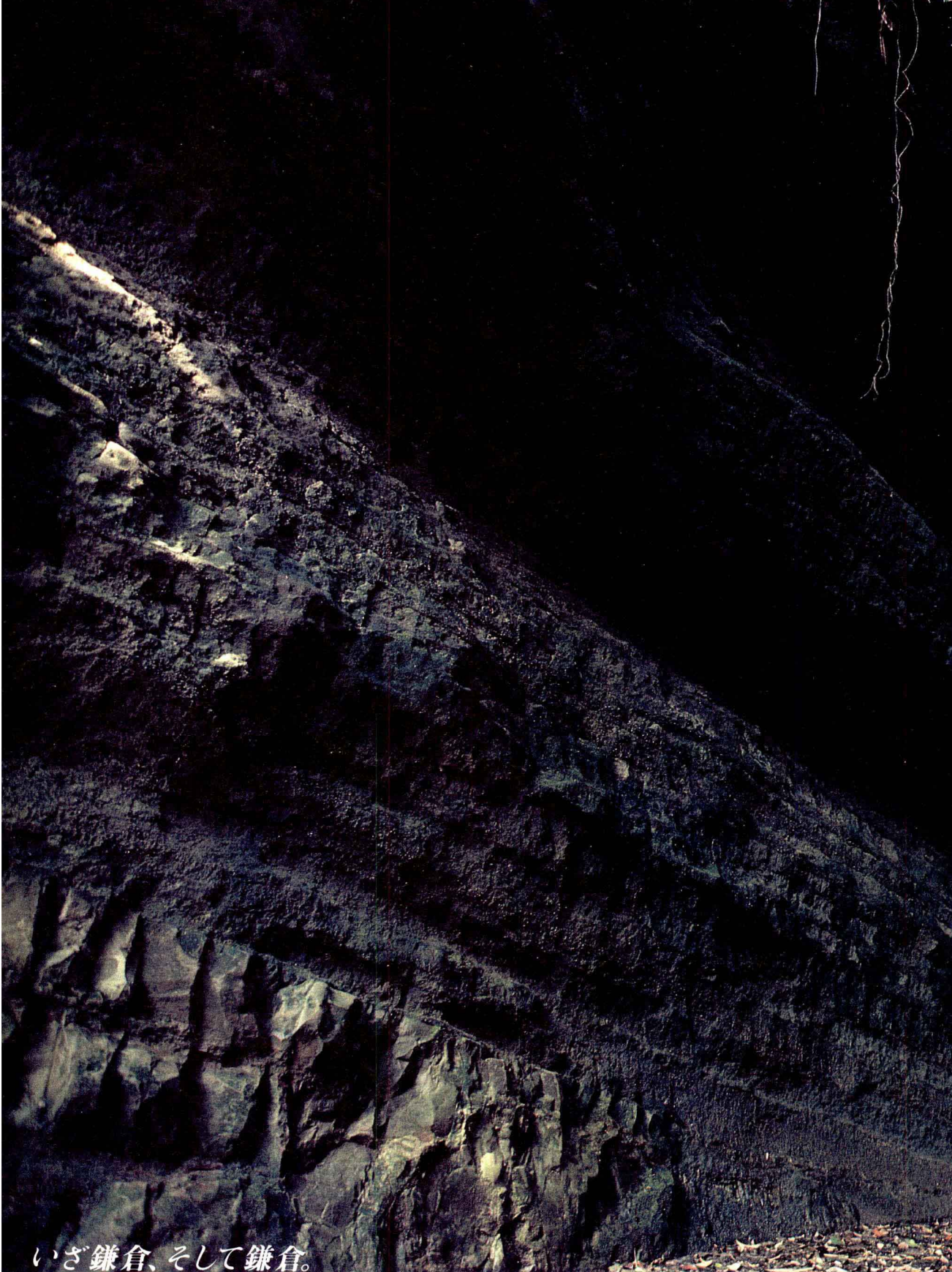


父祖の魂が頼朝を呼んでいた。

五代前の祖頼義がここに居を構えて以来、鎌倉は源家代々の魂が眠る、いわば故郷だった。治承4年(1180)頼朝は大軍を率いて鎌倉に入った。石清水八幡宮にまつられた父祖の地に帰ってきたのである。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com





いざ鎌倉、そして鎌倉。

鎌倉は自然の要塞だった。山に囲まれ、海に面して、どこからも攻め入るスキがない。山を削った幾つかの切通しだけが、そこに通じる道だった。この細い切通しを通じて、鎌倉は天下を支配したのだった。

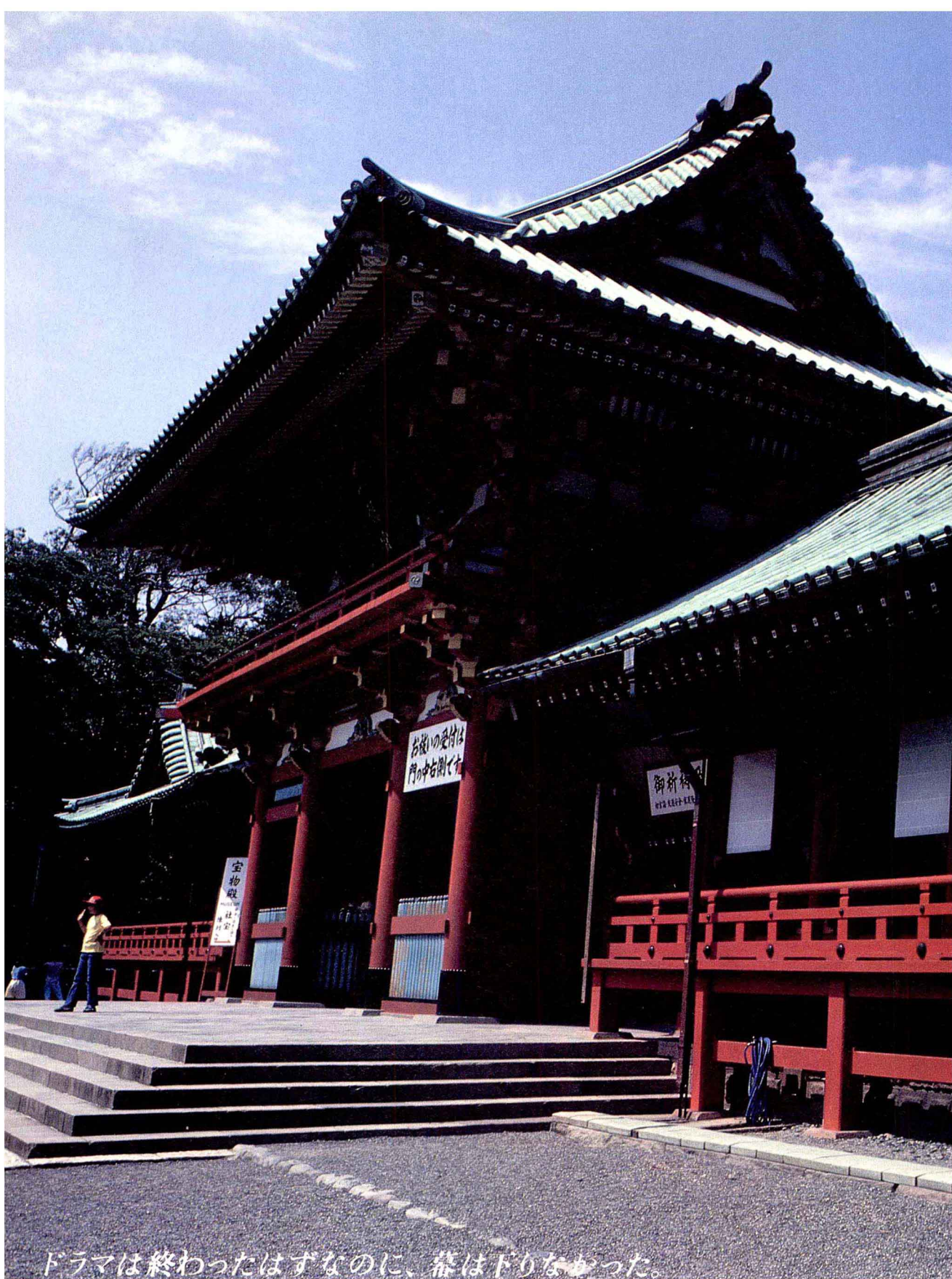


希望^{たひ}が一つ消える度、祈りは重くなる。

余りにも悪いことが重なった。頼朝はじめ相次ぐ愛する者たちの死。内紛。そして三代將軍実朝の病弱。尼となった政子は、更に遠く熊野三山に足を運んだ。神に祈らずにはいられない、そこがやはり女であった。







ドラマは終わったはずなのに、幕は下りなかった。

この境内の大銀杏の下で、たった一つの希望であった実朝が凶刃に倒れた。鶴岡八幡宮。喜びも悲しみも、すべての思い出がここで始まり、ここで終わった。その人生の舞台の上で政子はとうとう一人ぼっちになった。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com